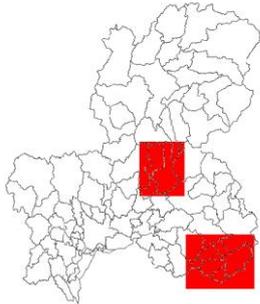


オオヤマカタバミ	<i>Oxalis obtriangulata</i> Maxim.	絶滅危惧Ⅱ類
(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)		カタバミ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が大幅に減少している。大部分の個体群がその再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	写真(山崎玲子)
形態の特徴	横に這う太い根茎があり、その先に1-2個の葉と1-2本の花茎をつける多年草。長い葉柄の先に倒三角形の小葉をつける。花期は4月ごろ。花茎は葉が開くよりも早く伸び、高さ2.5-25cm。花は白色で、紫色の脈がある。蒴果は円柱形で、長さ2-3.5cm。	
生態的特徴	低山帯～亜高山帯の林内に生える。	
分布状況	本州中部、九州、朝鮮、中国(東北)、ウスリーに分布する。県内では県南の北部及び南東部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県南の北部及び南東部のごく狭い地域に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定することのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅱ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良